

令和 7 年 1 月 14 日

仙台市長

郡 和子 様

仙台市公共事業再評価検討委員会

委員長 高橋 新悦

令和 6 年度の再評価対象事業の対応方針案について（報告）

仙台市公共事業再評価検討実施要綱第 6 条に基づき、仙台市公共事業再評価検討委員会において作成した令和 6 年度の再評価対象事業の対応方針案を再評価の結果とともに報告いたします。

記

1. 再評価の結果と対応方針案

事業名	再評価結果	対応方針案
都市基盤河川改修事業（高野川改修事業）	別紙 1 のとおり	事業継続
都市基盤河川改修事業（笹川上流改修事業）	別紙 2 のとおり	事業継続

2. 仙台市公共事業再評価監視委員会からの意見

【別紙 3】 のとおり

(様式－1－3)

令和6年度 再評価対象事業リスト（河川事業）

事業名 都市基盤河川改修事業（高野川改修事業）

事業の目的・内容	事業の進捗状況				事業を巡る社会・地元情勢の変化	事業の状況及び今後の見通し	費用対効果に係る要因の変化の有無 費用対効果(B/C)	対応方針 (案)	備 考					
	全 体		H14年度											
【事業名】 都市基盤河川改修事業(高野川)	事業着手 年度	昭和48年度	H14迄 事業費(D)	47.2億円	①過去の被害状況 昭和61年8月5日浸水実績(浸水戸数465戸、農地浸水面積60ha)公共施設等(JR仙石線、東北本線、主要地方道仙台松島線、コミュニティセンター、幼稚園等)。 ②地域開発の状況 土地区画整理事業「新田東(61.6ha)」「燕沢(2.1ha)、ミニ開発(21箇所)、仙台市公共下水道計画「高野川第1～7排水区」雨水幹線の整備。 ③他事業との調整 国土交通省との国道4号橋梁架け替えに関する協議。 ④環境への影響 地域の自然環境に配慮し、多自然型河道改修を計画している。 ⑤地域の協力体制等 市議会における反対決議や中止勧告等は生じておらず、協力体制に変化は生じていない。	都市基盤河川改修事業(当初都市小河川改修事業)により、昭和48年度に事業に着手し、現在下流より1,932m(一部国道4号横断箇所、JR横断箇所を除く)区間で概成している。 事業当初の計画では、1/20～1/50確率規模の治水安全度確保を目標としてきたが、高野川を横断する国道4号の橋梁架け替えがネックとなり、平成10年度に計画の見直しを行っている。(暫定計画) 国道4号バイパス拡幅工事と平行し平成15年度から国道横断部の改修(治水安全度1/30)に着手する。また、今後は主要地方道仙台松島線から上流L=1,672mの改修を進める計画である。 事業前→ (暫定改修) 将来計画 1/2程度 1/10 1/30 ～平成20年完成	事業全体のB/C B=110.7億円 C=74.8億円 B/C=1.4	事業継続	※H10年度 再評価実施					
	用地買収 着手年度	昭和48年度	H14迄 用地費(E)	21.0億円										
	工事着手 年度	昭和51年度	H14迄 工事費(F)	21.9億円										
	完了予定年度	平成20年度												
	全体事業費 (A)	84.4億円	全体進捗率 (D/A)	56.00%										
	全体用地費 (B)	34.9億円	用買進捗率 (E/B)	60.30%										
	全体工事費 (C)	49.5億円	工事進捗率 (F/C)	44.20%										
	全体計画	延長3,830m 面積4.42km ²	供用延長・ 整備率等	1,932m 50.40%										
	全 体(変更後)		H19年度							異常気象や地震に関する市民の防災意識が高まっている。 都市化の進展に伴い保水能力が低下し、雨水の流出量が増加している。 公共事業費の大幅な削減に伴い、都市基盤改修の補助事業費が平成15年度と比較して約1/10になっている。	都市基盤河川改修事業として、昭和48年度に事業に着手し、平成13年度には下流より1,932m(一部国道4号仙台バイパス横断箇所、JR線横断箇所を除く)では、概成していた。 JR線横断箇所及び国道4号仙台バイパス横断箇所のボトルネック部が、平成14年度から17年度までに解消され、この区間をあわせ、平成19年度では、下流から2,158mが完成している。 今後5ヶ年において、県道仙台松島線から門前橋までの区間を完成させ、その後引き続き上流側の整備を行う。 計画： ～平成44完成	事業全体のB/C B=218.1億円 C=141.7億円 B/C=1.54 一年遅れた場合のB/C B=216.9億円 C=141.0億円 B/C=1.54 現時点までのB/C B=163.8億円 C=124.2億円 B/C=1.32 来年度から完了のB/C B=40.5億円 C=16.8億円 B/C=2.41	事業継続	※H14年度 再評価実施
	事業着手 年度	昭和48年度	H19迄 事業費(D)	61.2億円										
用地買収 着手年度	昭和48年度	H19迄 用地費(E)	25.5億円											
工事着手 年度	昭和51年度	H19迄 工事費(F)	35.3億円											
完了予定年度	平成44年度													
全体事業費 (A)	84.4億円	全体進捗率 (D/A)	72.50%											
全体用地費 (B)	34.9億円	用買進捗率 (E/B)	73.10%											
全体工事費 (C)	49.5億円	工事進捗率 (F/C)	71.30%											
全体計画	延長3,830m 面積4.42km ²	供用延長・ 整備率等	2,158m 56.34%											
全 体(変更後)		H26年度		異常気象や地震に関する市民の防災意識が高まっている。 都市化の進展に伴い保水能力が低下し、雨水の流出量が増加している。	都市基盤河川改修事業として、昭和48年度に事業に着手し、平成13年度には下流より1,932m(一部国道4号仙台バイパス横断箇所、JR線横断箇所を除く)では、概成していた。 また、JR線横断箇所及び国道4号仙台バイパス横断箇所のボトルネック部が、平成14年度から17年度までに解消され、この区間をあわせ、平成19年度では、下流から2,158mが完成している。 さらに、平成20年度には門前橋までの約66m区間の工事を実施し、下流から2,224mを完成している。 今後は、平成27年度より3ヶ年で中流域の暫定整備(1/10)を行い、その後門前橋より上流側について引き続き1/30の整備を行う。 計画： ～平成44年完成	事業全体のB/C B=258.1億円 C=175.3億円 B/C=1.47 一年遅れた場合のB/C B=257.2億円 C=174.7億円 B/C=1.47 現時点までのB/C B=213.2億円 C=158.3億円 B/C=1.35 来年度から完了のB/C B=24.5億円 C=16.5億円 B/C=1.49	事業継続	※H19年度 再評価実施						
事業着手 年度	昭和48年度	H26迄 事業費(D)	61.9億円											
用地買収 着手年度	昭和48年度	H26迄 用地費(E)	25.9億円											
工事着手 年度	昭和51年度	H26迄 工事費(F)	36.0億円											
完了予定年度	平成44年度													
全体事業費 (A)	85.3億円	全体進捗率 (D/A)	72.57%											
全体用地費 (B)	34.9億円	用買進捗率 (E/B)	74.21%											
全体工事費 (C)	50.4億円	工事進捗率 (F/C)	71.43%											
全体計画	延長3,830m 面積4.42km ²	供用延長・ 整備率等	2,224m 58.10%											
全 体(変更後)		R1(H31)年度							異常気象や地震に関する市民の防災意識が高まっている。 都市化の進展に伴い保水能力が低下し、雨水の流出量が増加している。	都市基盤河川改修事業として、昭和48年度に事業に着手し、平成13年度には下流より1,932m(一部国道4号仙台バイパス横断箇所、JR線横断箇所を除く)では、概成していた。 平成14年度から17年度までに、JR線横断箇所及び国道4号仙台バイパス横断箇所のボトルネック部が解消、平成20年度には門前橋までの約66m区間(安行寺橋を除く)の工事により、下流から2,224mが計画断面で完成している。 また、平成28年度から29年度に中流域の暫定整備(1/10)を行った。 今後は、引き続き1/30の整備を行うとともに、ボトルネックとなっている橋梁の架け替えに向けて、用地権利者との重点的な交渉を実施する。 計画： ～令和14年完成	事業全体のB/C B=314.1億円 C=250.2億円 B/C=1.26 一年遅れた場合のB/C B=313.2億円 C=249.5億円 B/C=1.26 現時点までのB/C B=262.8億円 C=231.3億円 B/C=1.14 来年度から完了のB/C B=29.8億円 C=18.4億円 B/C=1.62	事業継続	※H26年度 再評価実施	
事業着手 年度	昭和48年度	R1(H31)迄 事業費(D)	62.3億円											
用地買収 着手年度	昭和48年度	R1(H31)迄 用地費(E)	26.2億円											
工事着手 年度	昭和51年度	R1(H31)迄 工事費(F)	36.1億円											
完了予定年度	令和14年度													
全体事業費 (A)	85.3億円	全体進捗率 (D/A)	73.80%											
全体用地費 (B)	34.9億円	用買進捗率 (E/B)	75.00%											
全体工事費 (C)	50.4億円	工事進捗率 (F/C)	72.90%											
全体計画	延長3,830m 面積4.42km ²	供用延長・ 整備率等	2,224m 58.10%											

令和6年度 再評価対象事業リスト（河川事業）

事業名 都市基盤河川改修事業（笹川上流改修事業）

事業の目的・内容	事業の進捗状況				事業を巡る社会・地元情勢の変化	事業の状況及び今後の見通し	費用対効果に係る要因の変化の有無 費用対効果(B/C)	対応方針 (案)	備 考	
	全 体(変更後)		R6年度							
【事業名】 都市基盤河川改修事業(筑川上流) 【事業の目的】 当事業は 治水:(市民の安全を守る) 利水:(市民の生活を支える) 環境:(市民の生活をうるおす) の河川に求められている機能の確保に 的確に応えるため、治水安全度の向上 により浸水被害を低減させるとともに、 河川環境の保全を図るものである。 【事業の内容】 ・改修延長 L=2,845m 筑 川:L=1,450m 後田川:L=1,395m ・治水安全度 1／30 ・計画降雨強度 76.6mm／hr ※1／30:毎年1年間にその規模を超え る洪水が発生する確率が1/30(3.3%)で ある。	事業着手 年度	平成元年度	R6迄 事業費(D)	32.2億円	近年の気候変動による激甚化、頻発化する豪雨災害発生を受け、以前にも増して市民の防災への意識が高まっている。 都市化の進展による流域全体の雨水浸透能力の低下や気候変動による降雨量の増加に伴い、河川への雨水の流出量が大幅に増加する傾向となっている。	平成元年度に都市基盤河川改修事業として着手した当河川は、現在、筑川について事業延長L=1,450m全区間の整備が完了し、後田川について事業延長L=1,395mのうち、523m区間の改修が完了している。 後田川においてはこれまで、土地境界確定未了や相続登記未了箇所が多く存在していたこと等、用地取得交渉が難航している土地があり、事業期間等計画に大幅な見直しが生じた。 下流側より順に整備を行う計画から、上流部の工事において優先度の高い箇所の用地取得を進める等により、事業を進捗させた。 また上記に加えて、令和元年東日本台風により大きな被害を受けた他の河川整備を優先的に進めるため、当河川改修工事の着手時期を調整する必要が生じた。 今後は、用地が確保できた箇所から順次工事に着手するとともに、相続が未了となっている土地の手続きについては、粘り強く地権者に依頼する等、引き続き、着実に用地取得を進める。 なお、境界確定作業や用地交渉の難航や令和元年東日本台風に伴う事業調整により、大幅な事業期間の見直しが生じたことから、事業期間を10年延伸する。 後田川 計画: ～令和18年度完成	事業全体のB/C B=245.9億円 C=140.6億円 B/C=1.75 一年遅れた場合のB/C B=245.4億円 C=140.3億円 B/C=1.75 現時点までのB/C B=223.8億円 C=131.2億円 B/C=1.71 来年度から完了のB/C B=16.5億円 C=9.4億円 B/C=1.76	事業継続	※R1年度 再評価実施	
	用地買収 着手年度	平成元年度	R6迄 用地費(E)	15.0億円						
	工事着手 年度	平成3年度	R6迄 工事費(F)	17.2億円						
	完了予定年度	令和18年度								
	全体事業費 (A)	43.7億円	全体進捗率 (D／A)	73.68%						
	全体用地費 (B)	18.1億円	用買進捗率 (E／B)	82.87%						
	全体工事費 (C)	25.6億円	工事進捗率 (F／C)	67.20%						
	全体計画	延長2,845m 面積9.36km ²	供用延長・ 整備率等	1,973m 69.35%						

令和 6 年度仙台市公共事業再評価監視委員会審議結果

仙台市公共事業再評価監視委員会

仙台市公共事業再評価検討委員会より提出された令和 6 年度の再評価対象事業の対応方針原案について、令和 6 年 11 月 25 日に開催しました仙台市公共事業再評価監視委員会において審議いたしました。再評価監視委員会からの主要な意見は下記のとおりです。

記

事業名	意見
都市基盤河川改修事業（高野川改修事業）	継続が妥当と判断する

<付帯意見>

なし

事業名	意見
都市基盤河川改修事業（笹川上流改修事業）	継続が妥当と判断する

<付帯意見>

なし